

文法活用の日常英語表現

Daily English and its Grammar

八木克正著



英宝社

はしがき

本書は、専攻を問わず大学生に必要な英文法の知識を総まとめしながら、その知識を英語を読んだり書いたりするのに役立たせる目的で作られました。このように実践的目的をもった本書には、次のような特徴があります。

(1) 現代の英語を読み書きする上で必要十分な文法知識を、簡潔に解りやすく整理しました。英文法に現れる用語でも、その意味が十分理解されないまま過ごしてきたものが少なくないと思います。本書では、そのような各種の用語の意味を簡潔に説明しています。

(2) 英語の題材を、読み解くに必要なものと、英語で表現するに必要なものとに分けるために、文語・古語と、無標のもの（どのスピーチレヴェルでも使われるもの）、口語的なものの区別ができるだけ明確にしました。また、英語で表現するに役立つ題材は、主としてアメリカ英語の、できるだけ日常的に頻繁に現れる表現を選びました。

(3) 英米の違いを明確にするとともに、わが国での通説にとらわれず正しい語法を提示するよう最大限の努力をしました。

アメリカ人は天候の話をする場合に *It is fine today.* ということはまずありません。Did you remember to *post* the letter? の例にある *post* もアメリカ人が使うことはまずないようです。また、よく辞書にある He *failed in the examination.* というような fail の自動詞表現は、英米を問わず実際にはまず使われることはありません。

これはほんの一例ですが、本書の記述には、今まで学習してきた英語の知識と照らし合わせると、違いに気付かれる点も数多く出てくるでしょう。実は、現状の辞書や文法書では英語の本当の姿はまだとらえきれていないのです。英語の研究は日進月歩です。このような現実の中で、本書ではできるだ

け英語の実態研究の最先端の成果を採り入れようとした。

(4) EXERCISE は、主に「英作文」の演習です。口語的な英語を作る Oral translation の部分と、やや堅い表現も含んだ英訳の演習の部分とに分かれています。日常表現を英語に直す練習から英文法の知識を身につけ、さらにその知識を応用して英語表現の実力をつけていただきたいという願いから、英作文の問題もかなりの分量になっています。

本書の執筆にあたって、内外の多くの辞書、文法書を参考にしました。用例についても、特殊なものを除いていちいち出典をあげてはいませんが、テレビの英語番組、英字新聞、アメリカの雑誌、英米の最近のベストセラー小説、英語会話のテキスト類のほか、英米の辞書、文法書に負うものが少くないことを記して謝辞とします。

本書の完成までに、多くの友人にみていただいて、記述の改良を重ねてきました。特に、英語学の諸分野で活躍中の、井上永幸、奥田隆一、土家裕樹、内木場努の各氏は本書の内容を細かく検討して、おしみない援助をして下さいました。井上永幸氏には、校正段階でも大変お世話になりました。また、平井一枝さんにも、校正で貴重なアドバイスをいただきました。

同僚の Geoffrey Blake 氏に、本書のすべての用例を時間をかけて幾度も校閲していただき、用例をより生き生きとしたものに改良しました。それでもなお本書の中には思わぬ誤りなどがあるかと思います。それは言うまでもなくすべて著者の責任です。ご教示いただければ幸いです。

本書の出版にあたって、恩師小西友七先生に英宝社への橋渡しをしていたきました。また、英宝社編集部の宇治正夫さんには、レイアウト、校正の面で大変お世話になりました。このような皆さんとの温かいご協力によって本書ができあがりました。ご援助をいただいた方々に心から感謝いたします。

平成2年9月

著者記す

目 次

はしがき	iii
PART I 文と文型	3
1. 文型と文を構成する要素	3
(1) 5 文型	3
(2) 基本要素とその他の要素	3
(3) 文を構成する要素と品詞	4
主部・述部 / 文構成要素 / 品詞	
(4) 文を構成する基本要素	4
主語 / 述語動詞 / 目的語 / 補語 / 目的語と補語	
〈EXERCISE〉	7
2. 修飾要素、独立要素と文の分類	10
(1) 修飾要素	10
形容詞的修飾語 / 副詞的修飾語	
(2) 独立要素	11
(3) 節と句	12
節とは / 節の種類 / 句とは	
(4) 文の種類	13
形態からみた文の種類 (单文, 複文, 重文, 重複文) / 意味	

からみた文の種類（平叙文、疑問文、感嘆文、肯定形・否定形）	
〈EXERCISE〉	16
 PART II　述語動詞構成要素と準動詞	18
 1. 動詞と動詞型	18
(1) 5 文型と動詞	18
文型と動詞 / 自動詞 / 他動詞 / 自動詞と他動詞	
(2) 5 文型と動詞型	20
動詞型 / tell の動詞型 / 英和辞典の動詞型表示	
(3) 文型の動詞型による細分化(用例)	21
第 I 文型 / 第 II 文型 / 第 III 文型 / 第 IV 文型 / 第 V 文型	
(4) 静的と動的	23
(5) 句動詞と複合動詞	24
句動詞 / 複合動詞	
〈EXERCISE〉	28
 2. 時制と相	31
(1) 時制とは	31
(2) 相とは	31
(3) 時制と相の組み合せ	31
(4) 単純現在形	32
(5) 単純過去形	33
(6) 単純未来形	33
(7) 完了形	34

現在完了形 / 過去完了形 / 未来完了形	
(8) 進行形	35
現在進行形 / 過去進行形 / 未来進行形	
〈EXERCISE〉	37
3. 助動詞	40
(1) 助動詞の種類	40
(2) 否定形・疑問形	40
(3) 助動詞の意味と用法	40
do / will / shall / be going to / would / should / can, could / may, might / must / have to, have got to, had to / ought to / need / dare / had better / used to	
(4) 助動詞が完了形を従える場合の意味	47
完了形をとらないもの / 話し手の判断 / 仮定法的用法	
〈EXERCISE〉	50
4. 態	53
(1) 態とは	53
(2) 能動文と受動文の関係	53
(3) 目的語と態	54
第 III 文型 / 第 IV 文型 / 第 V 文型	
(4) 受動態の方が普通に使われる場合	55
(5) 受動文と前置詞	56
(6) 動的受動態と静的受動態	56
(7) 能動受動文	57
〈EXERCISE〉	58

5. 法	61
(1) 法とは	61
(2) 命令法	62
命令法の形と意味 / 命令的な意味 / 命令文の主語 / 命令文 +and, or	
(3) 仮定法	63
仮定法現在 / 仮定法過去・仮定法過去完了と条件 / 仮定法 過去 / 仮定法過去完了	
〈EXERCISE〉	68
6. 話法と時制の一致	71
(1) 話法とは	71
(2) 伝達動詞と伝達部, 被伝達部	72
(3) 話法の転換と時制の一致	72
(4) 直接話法と間接話法	73
命令文 / 平叙文 / 疑問文 / 感嘆文	
〈EXERCISE〉	76
7. 準動詞 (1)—動名詞	79
(1) 準動詞の定義と種類	79
(2) 動名詞とは	79
(3) 動名詞の用法	79
主語 / 他動詞の目的語 / 形容詞の目的語 / 前置詞の目的語 / be 動詞の補語 / 名詞の同格	
(4) 動名詞の意味上の主語	81
(5) 完了形の動名詞と動名詞の表す「時」	82
(6) 受動態の動名詞	83
〈EXERCISE〉	84

8. 準動詞 (2) — 不定詞	86
(1) 不定詞とは	86
(2) 原形不定詞の用法	86
助動詞の後にくる本動詞 / help の後にくる名詞の用法 / (口語) で be 動詞の後 / go, come and の後で / 使役動詞・知覚動詞の目的格補語として	
(3) to 不定詞の用法	87
to 不定詞の意味上の主語 / 名詞的用法 (主語として, be 動詞の補語として, 動詞の目的語として) / 形容詞的用法 / 副詞的用法 / 完了形不定詞の用法	
〈EXERCISE〉	93
9. 準動詞 (3) — 分詞	95
(1) 分詞とは	95
(2) 現在分詞の用法	95
進行形 / 名詞の修飾 / 知覚動詞の目的格補語 / 使役動詞の目的格補語 / busy, have difficulty の後で / 分詞構文を作る / with + 名詞の後で	
(3) 過去分詞の用法	97
have 動詞とともに, 完了形を作る / be 動詞とともに, 受動態を作る / 名詞の修飾 / 使役動詞の目的格補語 / 知覚動詞の目的格補語 / 分詞構文 / 特定の動詞の目的格補語	
〈EXERCISE〉	100

PART III 品詞を中心として.....	102
1. 名詞・代名詞と冠詞	102
(1) 名詞の種類	102
機能からの分類 / 意味からの分類	
(2) 名詞型	104
同格または補語に that 節をとる場合 / it . . . that の型を とる場合 / it . . . to の型をとる場合 / 同格の to 不定詞を とる場合 / 同格の wh-節をとる場合 / 補語に to 不定詞を とる場合 / 成句 (have . . . of/for/in doing // have . . . that 節 // give . . . // make . . . // do . . .)/of // for + 動名詞句をと る場合	
(3) 名詞の数	107
相互複数 / 絶対複数 / 不定複数 / 総称複数	
(4) 名詞の数と動詞・代名詞との呼応	109
(5) 代名詞の格	111
(6) 冠詞の種類と用法	111
不定冠詞 / 定冠詞 / 無冠詞	
〈EXERCISE〉	116
2. 形容詞(句・節)と形容詞型	118
(1) 形容詞, 形容詞句, 形容詞節	118
(2) 叙述用法と限定用法	118
(3) 形容詞の種類	119
叙述用法と限定用法 / 程度形容詞と非程度形容詞 / 動的と 静的	

(4) 形容詞型	120
名詞の前位修飾 / 名詞の後位修飾 / 人称主語 + be + 形容詞 + that . . . / It + be + 形容詞 + that . . . / It + be + 形容詞 + to 不定詞 / It + be + 形容詞 + 動名詞 / 人称主語 + be + 形容詞 + to 不定詞 / 人称主語 + be, feel など + 形容詞 + 前 置詞	
(5) 限定詞——特に some, any	124
数量の some, any / 不特定の some, any	
(6) 形容詞句	126
〈EXERCISE〉	127
3. 関係詞	129
(1) 関係詞とは	129
(2) 関係詞節の限定用法と叙述用法	129
(3) 関係代名詞	129
種類 / who, whose, whom / that, which	
(4) 関係副詞	132
種類 / 叙述用法	
(5) 関係形容詞	133
(6) 接触節と関係詞節	134
(7) 強意構文と関係詞節	135
〈EXERCISE〉	136
4. 副詞と副詞的修飾語句	138
(1) 副詞・副詞的修飾語句とは	138
(2) 副詞	138
文・節を修飾する副詞（様態、頻度、主張・判断、接続副 詞、否定辞、時）/ 語句を修飾する副詞（様態、時、場所、 焦点化、名詞句の修飾、形容詞・副詞の強意）/ 句動詞の 一部になる副詞辞	

(3) 副詞句	141
前置詞十名詞(句)(時・期間, 場所・方向, 原因・理由, 方法・手段, 様態) / 不定冠詞十名詞(程度・分量, 時間) / (the+) 形容詞, 形容詞の語句十名詞など(時間, 距離) / 数量詞十名詞+after, before, ago など / 不定詞 / 分詞	
(4) 副詞節	145
理由 / 時・期間 / 条件 / 讓歩 / 付帯 / 結果	
〈EXERCISE〉	147
5. 比 較	149
(1) 比較の種類	149
(2) 同等比較	149
(3) 優勢比較	150
相対比較(比較級による比較, 最上級による比較) / 独立 比較(比較級による表現, 最上級による表現)	
(4) 同等比較・優勢比較の意味的な関係	152
(5) 劣等比較	152
(6) 特殊な比較	153
〈EXERCISE〉	154
APPENDIX 句読点の名称と用法	157
用語・語句索引	159

凡 例

文の前につけた * は、その文が英語として正しくないことを、また、? はその文があまり普通に使われる文ではないことを示す。本書は主としてアメリカ英語を題材にとっているが、必要に応じて(英)(米)(口語)(文語)(俗語)(古)などのレベルで、それぞれイギリス英語、アメリカ英語、口語、文語、俗語、古語として使われることを示した。

文法活用の日常英語表現

PART I

文と文型

1. 文型と文を構成する要素

(1) 5 文型 (five sentence patterns)

英語の文 (sentence) は 5 つの文型に分けることができる。

- 1) 第 I 文型 S+P We walked.
- 2) 第 II 文型 S+P+SC John is difficult.
- 3) 第 III 文型 S+P+O We like French.
- 4) 第 IV 文型 S+P+IO+DO Mary made him coffee.
- 5) 第 V 文型 S+P+O+OC We call her Maria.

S=Subject (主語), P=Predicate Verb (述語動詞), SC=Subjective Complement (主格補語), O=Object (目的語), IO=Indirect Object (間接目的語), DO=Direct Object (直接目的語), OC=Objective Complement (目的格補語). 第 III 文型の O は, 直接目的語 (DO) の場合もあるし, 間接目的語 (IO) の場合もある.

学者によって, 3 文型, 6 文型, 7 文型などを提唱する場合がある. ここに採用している 5 文型は, 絶対的なものではなく, 1 つの考え方すぎない.

(2) 基本要素とその他の要素

上にあげた例は基本要素だけからなる. 文はこのような基本要素だけからなる場合は少なく, 基本要素を修飾する要素 (修飾要素), さらにこれらの要

素とは文法的な関係がない独立した要素（独立要素）を含んでいる場合が多い。このような修飾要素、独立要素を加えても文型は変わらない。このように、文型を決定するのは、述語動詞の機能による。述語動詞と文型との関係については PART II 1 (3) 参照。

例 文

- (a) We walked *ten miles without stopping at all.*
- (b) John is difficult *to please.*
- (c) We like French *better than English.*
- (d) Mary made him *a good cup of coffee.*
- (e) We usually call her Maria, *you know.*

(3) 文を構成する要素と品詞 (parts of speech)

- 1) 主部・述部 文の主語を含む名詞句を「主部」、述語動詞と補語・目的語の部分を「述部」とよぶ。
- 2) 文構成要素 主語、述語動詞、目的語、補語、修飾語、独立要素というのは文を構成する要素としてみた場合の名称である。
- 3) 品詞 ある一定の機能を果たす語のグループとしてみた、名詞 (**noun**)、代名詞 (**pronoun**)、動詞 (**verb**)、形容詞 (**adjective**)、副詞 (**adverb**)、前置詞 (**preposition**)、接続詞 (**conjunction**)、間投詞 (**interjection**) などは品詞名である。

(4) 文を構成する基本要素

- 1) 主語 主語になるのは、名詞（句）およびそれに相当する語句・節である。（以下の例文はすべて第 II 文型）

例 文

- (a) *Those shoes* are not my size. (名詞句)
- (b) *To know* is one thing; *to do* is another. (文語的)(不定詞)
- (c) *Doing nothing* a whole day is simply a bore. (動名詞)
- (d) *That he is a liar* is apparent. (節)
 (=It is apparent that he is a liar.)

2) 述語動詞 述語動詞は、次の各文のイタリック体部分の全体をさす。

つまり、時制、相、助動詞、態、法、動詞の全部を述語動詞の構成要素と考える。

例 文

- (e) The concert *was over*.
- (f) *Would you mind* if I smoked [*or smoke*]?
- (g) He *is said to be* an excellent artist. (文語)
- (h) They *were singing* in a loud voice.

3) 目的語

- (i) 目的語になるのは、名詞(句)およびそれに相当する語句・節である。動詞によってどのような種類の目的語をとるかが決まる。目的語の種類については、PART II 1 (2) 参照。
- (ii) 動詞によって1つしか目的語をとらないもの(第III文型、第V文型)、2つとるもの(第IV文型)がある。
- (iii) 間接目的語は、述語動詞で表された行為が及ぶ対象を表し、「……のために」と「……に対して」のどちらかの場合が多い。
- (iv) 「……のために」の場合は for (何かの利益をもたらす意味の動詞の場合)、「……に対して」の場合は to (直接に物を与える意味の動詞の場合)を使って書きかえることができる(for [to] ~は副詞的修飾語に

6 I 文と文型

なるために第 III 文型になる)。

例 文

(i) They made *me* a good cup of coffee. [IV]

→ They made a good cup of coffee *for me*.

(j) Her parents gave *her* a nice present. [IV]

→ Her parents gave a nice present *to her*.

4) 條語

(i) 條語になるものは名詞(句), 名詞節および形容詞(句)と形容詞節。述語動詞が一部の使役動詞・感覚動詞の時, 動詞が目的格條語になることもある。

(ii) 條語は, 主語を説明する主格條語と目的語を説明する目的格條語がある。次の文中のイタリック体部分は, (k), (l) では主格條語, (m), (n) では目的格條語。

例 文

(k) The meat has gone *bad*.

(l) It's *nice* sitting here with you.

(m) Can you smell something *burning*?

(n) He likes his coffee *strong*.

5) 目的語と條語

(i) 一般的に, 主語と主格條語は述語動詞を be 動詞に置きかえると意味をもった文になるが, 主語と目的語とはそのような関係にならない。

(ii) 第 V 文型の目的語と目的格條語は, 主語・述語の関係になるか, または be 動詞を補うと意味をもった文になるが, 直接目的語と間接目的語とはそのような関係にならない。

〈Exercise〉 1. Oral translation. (できるだけ指定の文型を使うこと)

(1) このバスはダウンタウンへ行きますか。

(Does ...) [I]

(2) 1年は12カ月です。

(There ...) [I]

(3) 彼女は年のわりには若くみえる。

(for her age) [II]

(4) このコーヒーはよい香りがする。

(smell good) [II]

(5) 彼女は私を双子の妹とまちがえた。

(mistake A for B) [III]

(6) 忘れずに手紙を出してくれましたか。 (remember to mail) [III]

(7) 君は彼が正直だと思いますか。

[III]

(8) もう彼に借金を払いましたか。

(Have you ... / a debt) [IV]

(9) そのビルの高さを教えてくれますか。 (Can you tell me ...) [IV]

8 I 文と文型

〈Exercise〉 2. 「の」に注意して、英語に訳しなさい。

(1) 明日の朝は雨が降るだろう。

[I, II, III]

(2) 山本先生は英文学の専門家です。

(**a specialist**) [II]

(3) 奈良の人たちの中には大阪に通うサラリーマンが多い。

[II]

(4) その弁護士の助手は山田さんです。

(**an assistant**) [II]

(5) 彼はその会社の社長のあと継ぎです。

(**a successor**) [II]

(6) この部屋の鍵がなくなった。

(**lose**) [III]

(7) 来週、英語の試験がある。

[III]

(8) 最近ハワイの友達から便りがありません。

[III]

(9) 四つ葉のクローバーを見つけたことがありますか。

(**a four-leaf clover**) [III]

(10) 「キリン」を英語で何と言いますか。

('kirin'/How do you ...) [III]

(11) 象の鼻は長い。

(a trunk/has) [III]

(12) 日本の大学は入るのは難しいが出るのはやさしいと言われている。

[I, III]

(13) その山の上の湖には龍が棲(す)むと言われている。

[I, III]

(14) 今日の夜電話を入れてください。

(call) [III]

(15) 9月13日のパーティーの招待状を受け取りました。残念ながら私は
行けませんが、そのパーティーが楽しいものになりますように。

(an invitation)

(16) 彼は長髪なので若く見える。

(His long hair ...) [V]

(17) 彼の髪の毛はいつもばさばさだ。

(leave/unkempt) [V]

2. 修飾要素、独立要素と文の分類

(1) 修飾要素 (modifier)

修飾語には名詞を修飾する形容詞的な修飾語と、形容詞(句)・副詞(句)・名詞句・文を修飾する副詞的修飾語がある。

1) 形容詞的修飾語

例 文

- (a) He has a *long* nose./He has a *short* nose. (形容詞)
- (b) Students *in this class* are all cheerful and spirited. (前置詞句)
- (c) He has invested *a large amount of* money in the project. (数量詞)
- (d) This is the house *where Washington was born*. (関係詞節)
- (e) Is this the book (*that*) you've been looking for? (関係詞節、接触節。PART III 3 (6) 参照。)
- (f) There are a lot of people *working on his farm*. (現在分詞句)
- (g) He has no money *to buy it*. (to 不定詞)
- (h) *Which* dictionary is yours? (疑問形容詞)
- (i) Is *this* book yours? (指示形容詞)

2) 副詞的修飾語

例 文

- (j) The book he wrote is *very* interesting. (形容詞の意味を強める副詞)

- (k) He was *a bit* tired from the work. (形容詞の意味を強める副詞句)
- (l) The research team *carefully* examined the ruins. (動詞を修飾する様態の副詞)
- (m) I am *quite* a stranger here. (名詞句を修飾する副詞)
- (n) *Apparently* he is a liar. (文を修飾する副詞)
- (o) How did you come back here? (疑問副詞)
- (p) He isn't *that* foolish. (指示副詞)
- (q) He *never* works on Sundays. (文全体の否定語)
- (r) I went to the airport to see my father off. (副詞句)(to 不定詞)
- (s) I'll follow you *wherever* you go. (副詞節)

(2) 独立要素 (independent element)

独立要素には、ah, oh, huh, eh; ouch; oops (woops); hello (hullo), hi; ho-hum ([hóuhém] アーア [あくび]); OK などの綴りで表される間投詞; yes, yeah, no などの副詞; John!, pop, mom, sir, ma'am などの呼び掛け語; please という他動詞から変化した副詞; you bet という、文が変化したものなどがある。

例 文

- | | | |
|-----|--|----------------------|
| (a) | $\begin{cases} \text{i. } Ah, \text{he is coming!} \\ \text{ii. } Oh, \text{he is coming!} \end{cases}$ | (予測通り)
(予期しない出来事) |
| (b) | $\begin{cases} \text{i. } You \text{ are Japanese, } huh [\text{hʌ}]? \\ \text{ii. } You \text{ are Japanese, } eh [\text{éi}]? \end{cases}$ | 《おもに米》
《おもにカナダ》 |
| (c) | <i>Hi</i> , Jane, how are you? | |
| (d) | Haven't you been in the States for a long time?
—No, I've been in Canada. | |

- Yes, I've been there for three years.
- (e) { i. Will you *please* come with me? (命令文を丁寧にする)
 ii. Two coffees, *please*. (注文, 依頼)
 iii. "We have lots more coffee. Would you like another cup?" "Yes, *please*." (申し出を受ける)
 iv. Oh, *please*. That's enough. (相手の言葉をさえぎって)
 v. Oh, *please*, Jane. You are our guest today. You can't do the dishes. (相手の行動をさえぎって)
 i. We are not talking about such a thing, *you see*.
 (相手に念をおす)
 ii. *You know*, most of the time he seems like such a fool. (自分の発言に注意をひく)
 (f) iii. She thought a lot about her appearance, *you know*, and spent a lot of her money on clothes. (間をもたせる)
 iv. I can never remember dates. *You know*, I forgot to pay the bill yesterday. (相手も知っていることについて自分の言うことを目立たせたいとき)

(3) 節と句 (clause and phrase)

1) 節とは 節とは、主部と述部とをもつ文を構成する単位。1つの節が文をなしている場合もあるし、2つ以上の節が文をなしている場合もある。

例 文

- | | |
|---|--------|
| (a) How are you doing? | (1つの節) |
| (b) [I don't like [the way he talks]]. | (2つの節) |
| (c) [Although she has been working for the company for only | |

seven months], [she says [that she is always looking for other opportunities]]. (3つの節)

- 2) 節の種類 節には主節、従節、等位節がある。上の(c)の例では、主節は she says that... opportunities、従節は、Although... months と (that) she... opportunities まで。等位節は、[He got up at six in the morning] and [cleaned his teeth] のように等位接続詞の and, but, or で接続された節をいう。
- 3) 句とは 句とは、主部、述部をもたないで、一定の意味をもち、一定の文法的な機能を果たす、1つまたはそれ以上の語からなる文を構成する単位。名詞句、形容詞句、副詞句、動詞句がある。句も節と同じく、次の(e)の例文のように、他の句の中に埋め込まれていることがある。

例 文

- (d) (His family) (lived) (happily) (in (a little apartment))
(in Tokyo).
- (e) (I) (have (an American friend) (working for (a computer company))).

(4) 文の種類

1) 形態からみた文の種類

單文 (simple sentence): 1つの節からなる文。

複文 (complex sentence): 主節と1つ以上の従節(副詞節・形容詞節・名詞節)とからなる文。

重文 (compound sentence): and, but, or で結合される2つ以上の等位

節からなる文。理由を表す接続詞 for は『文語』で、for が接続する文は、複文か重文か学者によって見解が異なるが、ここでは複文と考える。PART III 4 (4) 1) (a) 参照。

重複文 (compound-complex sentence): 主節と従節とからなるが、主節、あるいは従節、あるいは両方が 2 つ以上の等位節からなる文。

2) 意味からみた文の種類

(i) 平叙文 (declarative sentence)

— 例 文 —

- | | |
|---|-------------|
| (a) Take care. | 「元気でね」(命令文) |
| (b) I'll come to your office at five p.m. | |

(ii) 疑問文 (question [*or* interrogative] sentence)

a) 一般疑問文 (general question)

— 例 文 —

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| (c) How do you come to school? | |
| (d) Why don't you join us? | 「仲間に入りませんか?」 |

b) yes-no 疑問文 (yes-no question)

— 例 文 —

- | | |
|---|--|
| (e) Are you from Africa? — No, I'm from the U.S. | |
| (f) Can't you believe me? — Yes, of course I can. | |

c) 付加疑問文 (tag-question)

— 例 文 —

- | | |
|--|--|
| (g) Let's have a potluck party tomorrow, shall we? | |
| (h) You haven't had your hair cut for a month, have you? | |

d) echo 疑問文 (echo-question)

例 文

- (i) John's family is originally from the Ukraine. — His family is from where (↗)?
- (j) My desk is made of mahogany. — Your desk is made of what (↗)?

e) 間接疑問文 (indirect question)

例 文

- (k) Excuse me, but could you tell me what time the train comes?
- (l) Who do you believe is the best player on the team?
- (m) Do you happen to know if he speaks Japanese?

(iii) 感嘆文 (exclamatory sentence)

例 文

- (n) What a nice day (it is) today! (what 感嘆文)
- (o) How tall the boy is! (how 感嘆文)

(iv) 肯定形・否定形 平叙文、疑問文は肯定形 (**affirmative**)、否定形 (**negative**) をもつ。肯定形とは、陳述 (**statement**) 全体が真であると話し手が主張する文の形をいう。否定形とは、文全体の陳述を真でないと主張する文の形をいう。文全体を修飾する否定辞 not, never, 否定的頻度を表す副詞 seldom, scarcelyなどを伴う文が否定文である。

〈Exercise〉 1. Oral translation. () の指示に従って訳しなさい。

- (1) 英語を読むのは得意ですが、書くのは苦手です。 (重文)

(I am good at .../poor at ...)

- (2) わからない単語が出てきたら、辞書を引いてごらんなさい。 (重複文)

(わからない = あなたが知らない; 出てくる = 発見する; look ... up
[or look up ...] in the dictionary)

- (3) あの人に駅へ行く道をたずねてみよう。 (單文と複文両方)

(the way to ... または how to get/how we can get ...)

- (4) 天気予報では晴れると言っていたが、雨になった。 (重複文)

(the weather report said ...) [according to ... とすると堅い文になり, 単文になる]

- (5) 山田先生が授業に来ないから休みかと思ったら、研究室で寝ていた。

(重複文) (an office)

- (6) 明日は創立記念日で学校は休みだ。 (the school foundation day)
-

- (7) 「明日休みをいただきたいのですが」「明日何をいただきたいって」

(echo 疑問文を使って)

〈Exercise〉 2. 下線部に注意して英語に訳しなさい。

(1) 店員：「今日はお客様が少なかったから、のんびりできた」

(be not so busy)

(2) ホテルの客：「フロントで中村さんが泊まっているか聞いてみよう」

(stay)

(3) 今日はお客様さんがたくさんみえるから、二階へ行ってなさい。

(4) 今日はそのスーパーは休みだ。

(5) 明日から3日間会社が休みだ。

(6) 今日は経済学の講義が休みだから図書館で勉強しよう。 (cancel)

(7) 「田中君」「先生、田中君は頭痛で休みです」

(8) 父は今日会社が休みだろうか。

(9) 学生は今から夏休みが待ちどおしい。

(look forward to)

PART II

述語動詞構成要素と準動詞

1. 動詞と動詞型

(1) 5文型と動詞 (verb)

1) 文型と動詞 英語の文が第何文型であるかは動詞によって決まる。動詞は大きく分けて、前置詞を伴わずに目的語をとる「他動詞」と、目的語をとらないか、または目的語をとるために前置詞を必要とする「自動詞」がある。

例 文

- | | |
|-----|---|
| (a) | <i>i.</i> Charles <i>reached</i> the airport after his plane had taken off.
(他動詞. airport を目的語にとっている)
<i>ii.</i> John has <i>visited</i> Japan several times.
(他動詞. Japan を目的語にとっている) |
| (b) | <i>i.</i> They <i>arrived</i> at the station after their train had left.
(自動詞. station は前置詞 at の目的語)
<i>ii.</i> Mr. Dickinson has <i>gone</i> to Finland several times.
(自動詞. 〔主に米〕Finland は前置詞 to の目的語) |

2) 自動詞 (**intransitive verb**) 様語をとらない「完全自動詞」(complete intransitive verb) と、様語をとる「不完全自動詞」(incomplete intransitive verb) がある。

例 文

- | | | |
|-----|--|----------|
| (c) | i. His family <i>went</i> to Seattle to see his parents.

ii. Everybody present <i>laughed</i> when he mistook my wife
for his wife at the party. | (完全自動詞) |
| (d) | i. Mary always <i>sounds</i> hysterical.

ii. The perfume <i>smells</i> sweet. | (不完全自動詞) |

ここでいう完全自動詞も、We all *breathe*, *drink* and *eat*. のように副詞をとらなくてもよいものと、We *went* to New York. のように副詞をとらなければならぬものとに区別できる。

- 3) 他動詞 (**transitive verb**) 他動詞は補語をとるかとらないかによって、「完全他動詞」 (**complete transitive verb**) と「不完全他動詞」 (**incomplete transitive verb**) に分かれる。さらに、「完全他動詞」は目的語を 1 つとるものと、2 つとするものがある。普通、3 つとることはない。2 つとするものは「与格動詞」 (**dative verb**) とよばれるものが多い。

例 文

- | | | |
|-----|---|------------------|
| (e) | i. What <i>causes</i> earthquakes?

ii. They <i>asked</i> him questions.

iii. I <i>envy</i> you your wealth. | (完全他動詞, 目的語 1 つ) |
| (f) | i. They <i>named</i> the ship Queen Elizabeth the Second.

ii. We <i>call</i> the cat Michael. | (不完全他動詞) |

- 4) 自動詞と他動詞 open, break, sell, close などのように、同じ動詞が、自動詞と他動詞の両方の用法をもつ場合がある。また、少し形が変わって自動詞と他動詞の対応関係をもつものがある。

例 文

- (g) { i. The door *opened* and a stranger came in.
ii. My girl friend *opened* the door and came in.
- (h) { i. The assistant professor *sat* on the sofa and crossed
his legs.
ii. He *set* the vase on the table.
- (i) { i. As soon as he went into his room, he *lay* on his back
on the bed. (自動詞 lie の過去)
ii. *Lay* the baby down gently and come into my room.

(2) 5 文型と動詞型 (verb pattern)

1) 動詞型 個々の動詞がどのような種類の目的語・補語などを従えるか
ということが「動詞型」である。例えば、「話す」という意味の tell は、
次のような例文の後に示した動詞型をとっているが、文型からみると、
(a) の各文は第 III 文型、(b) (c) は第 IV 文型。

例 文

- (a) { i. Ben often *tells* lies. [名詞の目的語(直接目的語)]
ii. Don't *tell* anybody. [名詞の目的語(間接目的語)]
iii. The teacher *told* us about the plane crash.
「飛行機の墜落」 [名詞の目的語+前置詞句]
- (b) { i. The teacher often *tells* us jokes. [名詞の目的語 2 つ]
ii. Will you *tell* me the way to the station? [同上]
- (c) The professor *told* me that I would flunk in math.
[名詞の目的語+目的語になる that 節]